横浜市役所

(1)面接の概要・内容

面接日：2023年7月10日（月）

面接官（何名いたか等）：2名

面接時間：15分

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：広い会議室、2m

私：失礼いたします。

面接官：受験番号と名前をお願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくをお願いいたします。

面接官：着席してください。

面接官：緊張していますか。

私：はい、とても緊張しています。

面接官：昨夜はよく眠れましたか。

私：緊張していたのですが、しっかり睡眠はとってきました

面接官：（志望動機やボランティア、アルバイトが教育関連であることから）なぜ教育や教育格差に関心を持ったのですか。

私：自分自身が教育の現場で知識や人間性などを培って人格を形成してきたという実感があったので、未来を切り開く子どもたちにとって、教育は社会を生き抜くための重要な基盤になると考えているからです。

面接官：他に関わりたいことはありますか。

私：少子高齢化によって市内の人口が減少する一方で在住外国人の数は増加し11万人以上になっており、相互理解を深めて誰もが生活しやすいまちづくりが求められているので、留学生支援をして気づきを得た経験から、多文化共生をはじめとする国際事業にも携わり、誰もが暮らしやすい多文化共生の実現に挑戦したいです。

面接官：居場所づくり事業をするにあたり、なぜ横浜市でなければならないのですか？

私：私は、未来を切り開いていく子どもたちが健やかに成長するための第三の居場所づくりについて、横浜市でこそ実現できる、そして実現したいと思ったため横浜市を志望しました。その理由は大きく2つあります。

①私自身が地域ケアプラザで小中学生に向けた学習支援ボランティア活動をする中で、他の居場所活動の団体や関係機関とのネットワーク強化による連携が必要だと感じたのですが、身近な福祉拠点として中学校区ごとに地域ケアプラザを持つ横浜でこそ、そこをハブとして区内の各地域や区内、そして区同士での関係機関との連携を強めることで、地域ぐるみで包括的に子どもの成長を支えられると考えるからです。

②市民の方々のシビックプライドが高く、さらに市外から関係人口となる方々も集って協働する横浜でこそ、市内外の方々と協働して子どものための多様な居場所づくりが展開できると考えるからです。

面接官：管弦楽団の活動についてですが、なぜ弦責を務めようと思ったのですか。

私：理由は2つあります。1つ目は人前に立ち統率するのが苦手だった自分と向き合い成長するため。2つ目はそれまでの練習体制に改善の余地があると考えていたため。現状維持は衰退だと思ったので、行動を起こそうと思い立ちました。以上の理由から、やりたがる人がいない中、立候補して務めました。

面接官：新たな取組みをするにあたって反対意見はなかったですか、どう対応しましたか。

私：コロナ禍で短くなった活動時間の中でわざわざフィードバックの時間を割くのは無駄だという匿名での意見をいただいていた。そこで、貴重な時間を使ってでも行う意義や効果を全体に向けて伝え、理解してもらいました。具体的には、観客の心を動かす演奏をするためには一人ひとりが主体的に合奏に向き合い課題を考える必要があることや、全体で課題を共有し同じ方向性を向くことで組織として早いスピードで上達できることを伝えました。

面接官：塾講師アルバイトの活動について、年齢が下の先輩とどのように関わっていましたか。

私：年齢が上だからといって偉いということはまったくないと思っているので、常に学ばせていただく態度で年下の先輩の講師と関わっておりました。

面接官：保護者からのクレーム対応の経験はありますか。

私：塾講師のアルバイトをする中で、生徒の忘れ物について伝えるために塾長から保護者に電話をかけるように指示があり、実際にかけたところ内容を伝える間もなく「こんな夜遅くに電話をかけてくるのは非常識ではないか」

というお叱りの言葉を受けました。その際、私はまず親御さんの話を最後まで聞き、しっかりと家庭の事情を配慮できなかったことを謝罪しました。その上で、生徒が財布を忘れたことを説明し、紛失したか不安になっていないか心配で電話をかけたことを伝えたところ、最終的には納得していただくことができました。

面接官：併願状況について教えてください。

私：私は横浜市が第一志望なので公務員は専願で、面接対策のために民間企業5社を併願しておりました。金融業界をみており、銀行3社、保険2社です。

面接官：あなたを雇うメリットを1分以内で話してください。

私：私の2つの自分らしさを、横浜市の持続的な発展のために生かすことができます。

1つは、個別指導塾のアルバイトで培った「相手の目線に立ち、バックキャストिंगの思考で課題解決をする姿勢を持つこと」です。市民の方や活動団体と関わる中で相手のニーズを自分事としての確に掴み、バックキャストिंगの思考で現状の課題を脱却する1歩踏み込んだ取り組みが可能になると思います。

もう1つは、弦楽器責任者で培った「誰一人取り残さない姿勢で全体利益を追求する意欲があること」です。常に誰一人取り残さないという視点で、市民の方々から託していただいた税金を、どのように持続的な市の発展のために使うべきかを考えていけると思っております。

このような私の自分らしさをもって、市民の方々と共に横浜市の持続的な発展に尽力してまいりたいと思います。

(2)面接を終えての印象

とにかく緊張していましたが、緊張しなくて大丈夫ですよという面接官の方のお声かけがあったり、私の回答内容に対してすごいですね、などと温かく反応してくださったりしたので、私の素直な姿や言葉で表現することができたと思いました。また、あらかじめ伝えたいことを頭の中に整理していたので、受け答えもスムーズにできました。

最後の質問で、あなたを雇うメリットはどんなものか、というような想定していない質問がありましたが、落ち着いて自己PRも含めた回答ができ、面接官の表情も良かったので安心して面接を終えることができました。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

アガルトの講師の方による模擬面接では、圧迫面接のような自分の回答について詰められる面接もしていただきましたが、実際の面接ではどちらも温かい雰囲気での面接で、いい意味でかしまらず、自分らしさを出すことができました。また、模擬面接では志望動機について深く掘り下げられることが多かったのですが、実際の面接では自分のこれまでの経験やそこから繋がる自分のアピールポイントについての深掘りが多く、人物重視の面接であるように感じました。

(4)他受験生の印象

女性よりも男性が多いような印象を受けました。待合室では、面接カードや想定質問と答えをまとめたようなノートなどを見ている受験生や、緊張でため息をついたりする受験生がおり、張り詰めた空気にもなれそうになりました。市外出身者や国家職との併願の受験生も多くいるようでした。

(5)受験生へのアドバイス

面接の服装指定は「季節に合わせた服装」でどんな格好か迷ってしまうかもしれませんが、夏場なので、ジャケットを着ない受験生もいましたし、シャツも半そでの方もちらほらとおり、文字通り季節に合わせた服装で構わないと思います。場所はわかりやすいですが、早めに到着している方が多くいました。面接の順番によっては1時間以上待合室で待つ場合もあるので、面接カードや自己PRなどを簡潔にまとめたノートを持参すると、その待ち時間を有効に使えると思います。